

▶ 避難時の心得

避難の基本的な考え方

危険が迫る前に早めに避難

雨や風が強いときに外出することは大変危険なため、危険が迫る前に早めの対策をすることが何よりも重要です。自ら積極的に気象情報等入手することで、迫りくる危険を予測して、早めの避難を心がけましょう。浸水の危険性がある場合には、速やかに頑強な建物の2階以上、またはお近くの浸水しない地域に避難してください。

自宅に留まることも避難の一つ

既に河川が氾濫している場合などは、屋外を移動して避難所等へ避難する途中で被災することも考えられるため、自宅等の屋内に留まったり、建物の上階へ移動したりするほうが安全な場合もあります。

避難する時の注意点

▶ 正確な情報収集と自主的避難を

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



▶ 避難する前に

避難する前に、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を止めておきましょう。また、避難所・避難場所の経路を確認し、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。



▶ 歩ける深さ

歩ける深さは、膝下までです。水深があるようなら高いところで救助を待ちましょう。



▶ 徒歩での避難、水面下に注意

水面下には、どんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

大雨により、マンホールのふたが外れることがあります。危険ですから近寄らないでください。



▶ 非常持ち出し品等、荷物は必要最低限に

避難するときの荷物は必要最低限とし、特に妊産婦や乳幼児がいる家庭は必要なものをよく確認して、事前に準備しておきましょう。



▶ 速やかに避難しましょう

高齢者等避難指示などは、危険が迫ったときに出されます。市や消防団から呼びかけがあった場合には、速やかに避難しましょう。また、避難の際には消防、警察などの指示に従いましょう。



▶ 動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、家を施錠し、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。サンダル等は禁物です。動きやすい運動靴等をはきましょう。



▶ 車での避難は控えて

自動車での避難は、緊急車両の通行の妨げになりますので、避難所まで遠い場合や特別の場合を除きやめましょう。

▶ 万一、逃げ遅れたら

近くの丈夫な建物の2階以上に避難して救助を待ちましょう。住宅の2階部分でも場所によっては、危ないときもあります。

▶ 日頃からの心がけ

風水害に備えておくべきこと

台風や集中豪雨はある程度予測できる災害です。情報入手し、しっかりした準備をしておきましょう。

建物などの事前準備

古い雨戸は、飛ばされないように筋交いをつけたり、つっかい棒をあてがったりして、応急の補強をする。

竿を取り込み、ベランダなどの小物を全て取り込む。

屋根瓦のずれなどを補修して飛ばされないようにする。

アンテナや煙突などの補強をする。

雨樋の掃除をする。

雨戸のないガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。

手すりや壊れていたら修理する。

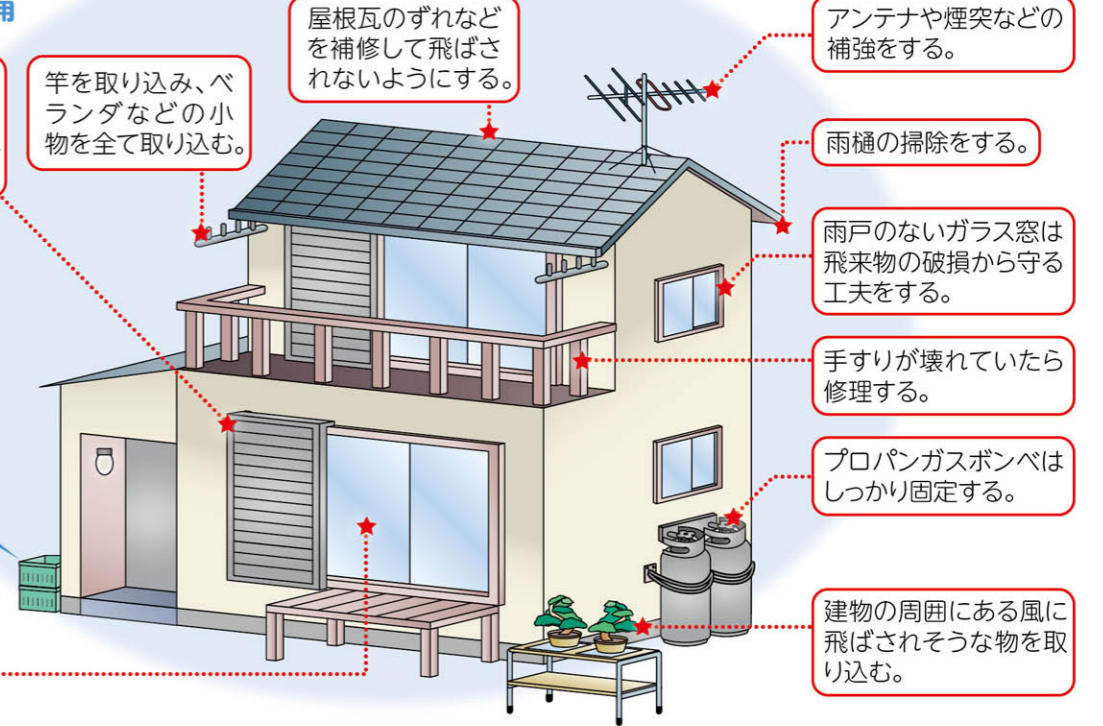
プロパンガスボンベはしっかり固定する。

建物の周囲にある風に飛ばされそうな物を取り込む。

建物の周囲にある箱などを片付ける。

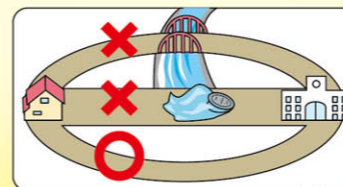


浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は二階や高い安全な場所に移動する。



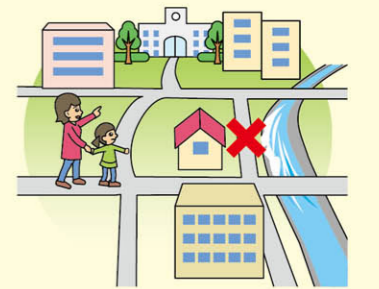
▶ 自宅周辺の危険箇所を確認

冠水や洪水時には濁水により足元が見えなくなるため、マンホールや用水路、側溝など、自宅周辺に潜む危険箇所を事前に把握するとともに、避難路を確認しておきましょう。



▶ 避難経路の確認

避難場所までのルートをあらかじめ決めておき、安全に通行できるかを実際に歩いて確認しておきましょう。
※外出している家族が、交通機関のマヒなどで帰宅できない場合もあります。離ればなれになってしまった場合に備え、連絡方法や避難場所・集合場所を日頃から十分話しあっておきましょう。



▶ 側溝や雨水ますの清掃

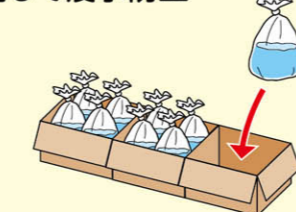
側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や浸水の原因になるため、台風の接近や大雨が予想される場合には、近所の側溝や雨水ますが詰まっていないか確認し、清掃等を行っておきましょう。

● 家庭にあるものを利用して浸水防止

簡易水のうを活用して



ゴミ袋を2重にして中に半分程度水を入れ、袋の口をしぼると簡易水のうができます。



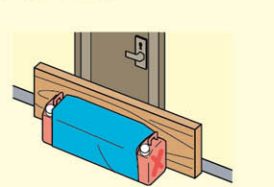
ダンボール等に入れると持ち運びに便利で、設置も簡単です。

プランターやポリタンクを活用して



プランターやポリタンクを並べてレジャーシートで包み、浸水を防ぎます。

止水板を活用して



長めの板等を利用して、水のうやポリタンクと組み合わせ、浸水を防ぎます。